

研究課題（テーマ）		英語ランチタイム Chat	
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	教養教育センター	准教授	モクタリ明子
	〃	准教授	清水義彦
	〃	講師	碓井エリザベス
	〃	講師	リ オリガ
研究結果の概要			
令和6年度の後期授業期間において、週5日（月～金）12時15分から13時までの45分間、本学学生および教職員が英語でコミュニケーションをとる機会を提供した。毎回の参加人数は1～6名であった。本学英语非常勤講師および英語教員がファシリテーターを務め、参加者たちは授業とは異なった雰囲気の中で、時には昼食をとりながらリラックスして英会話に従事することができた。内容は、英語を使ったアイスブレイカーのゲームのあと、決められたトピックについて会話を進めることもあれば、45分間を通して全くの自由会話であることもあった。進め方や内容は、当日の参加者の人数や様子を見て、ファシリテーターが臨機応変に判断した。 授業よりも少人数であるため、参加者ひとりひとりが時間をかけて自分の言いたいことを、すでに知っている単語や文法を駆使して表現することが可能であった。ファシリテーターが、参加者の質問に対して、納得が行くまで丁寧に回答する姿も多々見られた。参加者の多くは、本プログラムに継続して参加していたため、回を重ねるごとに、インプットとアウトプットの潤滑なサイクルが促進され、より積極的に自ら英語を話すようになっていった。 Chatへの参加を通して、自信をもって「自分は英語が話せる」と言えるようになったという感想も参加者から聞かれた。このように、1回の参加人数は少数であったが、既に自分の中にある知識を使い、言いたいことを英語で表現する練習の場を、存分に提供することができた。			
今後の展開			
英語科では、引き続きリラックスした雰囲気の中で、学生たちが英語でコミュニケーションをとれる機会を提供するとともに、日本人学生と留学生の交流の場を設けるなど、より包括的に本学学生のグローバルコンピテンシーを向上させるプログラムの実施を計画している。			